

# 大安寺報



名句・名言に学ぶ

ニーチェ (哲学者)

樹木にとって最も大切なものは何かと問うたら、それは果実だと誰もが答えるだろう。しかし実際には種なのだ。

盆の入り直前の八月上旬は、庫裡（本堂向かって右側の建物）・本堂の前にある梅の実が熟し、土の上にポロポロと落ちてくる時期です。このお寺をお守りしていつつくづく感じるのは、四季折々の花々や木々の葉の色づき、そしてそこに集まる鳥のさえずりなど、四季折々の自然の情景を味わえる喜びです。それに加えて、梅の実のように、味覚を楽しませてくれる果実をも得られるのが、何よりの恩恵。また、背後の大安寺山には歴代の住職やお檀家さんたちが植樹し、地域の方々が育んできた杉やヒバが林立しています。その中でも、山門にそびえる樹齢三七〇年（推定）の大杉の枝や幹を吹き抜ける風の音もまた趣があります。

冒頭のことばが示すように、これらの植物、とりわけ樹木の魅力は、私たちに様々な果実をもたらしてくれることでしょう。特に広葉樹からは、クルミや栗などの木の実が得られ、人間はそれらを大切な食糧としてきました。しかし、ニ

チェはそれはあくまで表面的なことだと喝破します。あくまで、果実の中にある、種こそが大切だと説いているのです。このことばは、私たち人間の人生の本質を説いているように思えてなりません。

「果実」とは、人生における「結果」です。収入・名誉・財産・他者からの評価など、それは目に見えやすく、自己肯定感を高めやすいものばかりです。しかし、人生にはまさかの出来事がつきもの。必ずしも結果の得られる条件が整うとは限りませんし、それを得られないがために、不満を募らせてしまいがちです。「種」とは「行動」です。その果実がなる樹木が存在するためには、そもそも「種」が必要で、「結果」を得るためには、「行動」が必要なのです。たとえ果実が得られなくても、種をまき続けなくてはならない。それが人間の宿命であり、本分なのです。大安寺山に茂る樹木を見上げるたび、次代のために黙々と樹木の種・苗を植え、額に汗しながら行動してくださった先達の想いを感じるのです。そこには、仏教の大切な精神である「利他」（他を利益する）他者のために尽くすの生き方が脈々と流れています。

このお盆、ご先祖さまが皆さんのためにまいてくれた種（行動）に思いを馳せ、自分の生き方を省みてみませんか？

## 仏事

### Q & A

第三十五回

Q、お葬式は、自宅・寺院・葬儀会館（セレモニーホール）のどこで行うのがいいですか？

A、最近では葬儀会館などを利用しての葬儀が多くなりました。しかし、自宅や寺院での葬儀を望む方ももちろんいらっしゃいます。それぞれの場所によい良きがあるのかを挙げてみたいと思います。

自宅―故人にとって一番ゆかりのある場所。遺族の方が落ち着いたで過ごせる。ご近所の方が参列しやすい。

寺院―菩提寺のご本尊様に見守られる場所。普段からお参りして馴染みがあり、荘厳な雰囲気がある。会場費用の負担が少なく、駐車場が広い場合が多い。

会館―葬儀を行う設備が常に整っている。葬儀準備における遺族の負担が少ない。

生前の故人の意向を聞いていればそれも考慮し、それぞれの良さを認識した上で、会場を決めたいものです。

参考：「おくる」曹洞宗の葬儀と供養

（編著：曹洞宗岐阜県青年会）

大安寺の宗旨：曹洞宗 本山：福井県永平寺・神奈川県總持寺 高祖：道元禪師 太祖：瑩山禪師  
ご本尊：釈迦牟尼仏 本尊唱名：南無釈迦牟尼仏（なむしゃかむにぶつ）